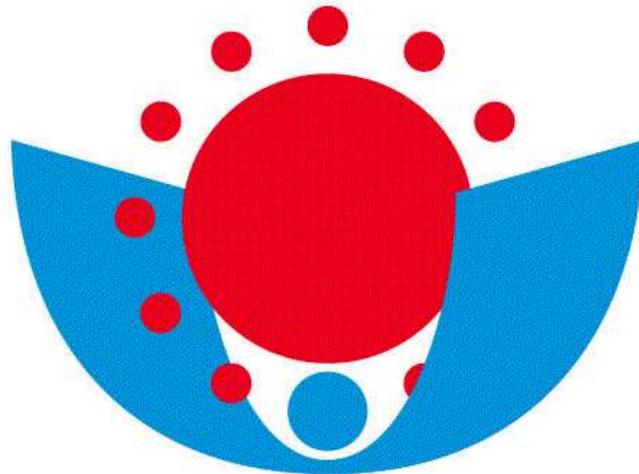


平成30年度

# てだこ市民大学 第9期生 卒業研究発表会



てだこ市民大学

日時：平成31年2月16日(土)10時～12時

場所：浦添市市民協働・男女共同参画ハーモニーセンター ホール

## ～目 次～

1. 木下 勝巳…………… P 1～6  
教育民泊を通してうらそえのファンを増やす
2. 長谷川 正志…………… P 7～10  
勢理客獅子舞のパンフレット制作  
～自治会の活性化へ繋げる、自分ができる行動～
3. 久田 友貞…………… P 11～23  
「里浜」の活用について
4. 下地 優貴子…………… P 24～32  
浦添市における女性向けタクシーツアーの提案  
～沖縄を心いっぱい贅沢に味わう、癒しのタクシーツアー～



# 卒業研究

学部名：コミュニティビジネス・地域振興学部

氏名：木下 勝巳

## 1. テーマ

教育民泊を通してうらそえのファンを増やす

## 2. テーマ設定理由

(個人的な想い)

- ・第二の故郷浦添が賑やかになることはうれしいこと
- ・地域にかかわることをしたい

(生活や仕事の中で感じたこと)

- ・浦添市観光協会で1年半、現在は沖縄輪業
- ・NPO 法人自然体験学校沖縄校との出会い

(まとめ)

- ・学べる、体験できる題材が豊富にある浦添は、修学旅行生の受入と相性が良いはずだ！

## 3. 項立て

1. 自己紹介
2. テーマ選定理由
3. 教育民泊の良いところ
4. 受入家庭募集
5. 受入実績
6. 期待できる効果
7. 今後

# 卒業研究発表

コミュニケーション・地域振興学部  
木下勝巳

2019年2月16日

テーマ

教育民泊を通して  
うらそえのファンを増やす

テーマ選定理由

(個人的な想い)

第二の故郷うらそえが賑やかになることはうれしいこと

地域に関わることをしながら第二の人生を過ごしたい

テーマ選定理由

(生活や仕事の中で感じたこと)

浦添市観光協会で1年半

現在は、沖縄運輸株式会社

NPO法人自然体験学校沖縄校との出会い

## (うらそえナビ記事)

English 中文 繁體 設置

### 和カフェ 和花 (nodoka)

公開日 2017/12/11

コンセプトは、「和の心、琉球の心」そして「若い人が親しみやすい伝統文化」

2017年11月27日(月) 池川ステイタツサイドタウンの一番奥のブロックにステキな和カフェ 和花 (nodoka) さんがプレオープンしたとの情報です。今週、2017年12月13日(水)のグランドオープンに先がけておすすめメニューや店内の様子をご紹介いたします。ちなみに店名は和花と書いて「のどか」と読みます。お客様が「ほっ」と和めるような店名になったことが、

English 中文 繁體 設置



## (うらそえナビ記事)

English 中文 繁體 設置



English 中文 繁體 設置



## (フェイスブック投稿)

木下勝巳 2018年6月18日

おはようございます。公園昨日は、伊祖公園に行ってきました。公園内には伊祖グスクがあります。伊祖グスクは、「浦添城跡」、「中頭方西海道及び普天満参詣道」に続き、浦添市内3件目の国の文化財に指定されることになったそうです。浦添観光にははずせない場所ですね。伊祖には、浦添総合病院や浦添商業高校もあります。



木下勝巳 2018年6月12日

おはようございます。今日は浦添市西洲にきています。「いりじま」と読みます。西は日が沈むから「いり」と読み、東は日が昇るから「あがり」と読みます。西洲は、卸商業団地があり、沖繩の名だたる企業の本社や物流センターがあります。また浦添埠頭... もっと見る



## (フェイスブック投稿)

木下勝巳 2018年7月7日

おはようございます。今日は浦添市当今朝の浦添市内快晴です。今日は浦添市山2、3丁目に来ています。来る途中浦添大公園の緑が綺麗だったのであらためて撮りました。当山2、3丁目は大きなシヨッピンモールや米国総領事館がありますね。また小中学校もありました。沖繩ではスタバもドライブスルーです。笑。浦添人景の一つカリージー(為朝岩)は綺麗に整備されて看板もたっていましたよ。浦添進化中です。



他10件





受入実績

- 2018年10月5日～6日  
受入校 横浜市  
受入家庭 5軒  
受入人数 21人



受入実績



受入実績

- 2018年10月22日～23日  
受入校 横浜市  
受入家庭 5軒  
受入人数 22人



受入実績



## 期待できる効果

浦添での楽しい体験を地元で家族や友達に語る



家族で沖縄旅行する  
友達と沖縄に遊びに来る  
新婚旅行で沖縄を訪れる  
子どもが出来て家族旅行で沖縄に来る  
※沖縄旅行の時に浦添に立ち寄る



時間をかけてじわじわとうらそえのファンが増える

## 今後

- 修学旅行のシーズンは、春と秋
- 春は中学生、秋は高校生
- 5月に中学生がやってくる予定
- 受入家庭を10軒まで増やしたい(現状5軒)
- 事務局の体制も整えながらじっくりと増やしていきたい



# 卒業研究

学部名：コミュニティビジネス・地域振興 学部

氏名：長谷川 正志

## 1. テーマ

勢理客獅子舞のパンフレット制作  
～自治会の活性化へ繋げる、自分ができる行動～

## 第1項 研究の目的と方法

### 1節 目的と経緯

勢理客自治会の獅子舞（十五夜祭）を見に行った際、はじめて浦添市を代表するような文化だということを知った。自治会に資料があるか聞いたが配布できる資料は無いとの事だった。浦添市民も知らない人が多い勢理客の獅子舞だが、資料がない事がなかなか浸透しない1つの理由であると考え、自身の得意分野でもあるデザインを活かし貢献することにした。また、自治会の文化が広まることは引いては「自治会の活性化」に繋がり、浦添市の自治会加入率は約24%の向上（2016年）にも少しは役には立つのではないかと考えた。

※自治会加入率資料「浦添市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート」（別添資料1）

URL: <https://www.city.urasoe.lg.jp/docs/2017031500018/>

### 2節 方法

- (1) 情報収集
  - ・勢理客自治会（具志堅全輝会長）への取材
  - ・浦添市立図書館 資料収集
  - ・浦添市文化課 資料収集
- (2) パンフレットの制作
- (3) パンフレットの配布・提供

### 3節 集まった主な資料・情報

- ・勢理客獅子舞とは旧暦 8 月 15 日に行われる、十五夜祭に主として演じられている演舞である。
  - ・獅子舞は国選択無形文化財また浦添市の無形文化財である。
  - ・伝承では 400 年前から続いている祭りである。
  - ・コーレー具志堅という人が伝えたと言われている。
  - ・ある出来事からどんな天候であっても必ず行うこととなった。
  - ・顔はデイゴの木に漆を塗って仕上げられている。目は真鍮（しんちゅう）、耳や馬の皮、尻尾は馬の尻尾、毛は芭蕉の繊維でできている。
  - ・演目が豊富である。（全 1 1 芸）
  - ・浦添市以外でもさまざまな獅子舞が県内にはある。 など
- ※詳細は完成パンフレットを参照

※参考資料：浦添市図書館「浦添市史 浦添のあゆみ 第一巻 通史編」

浦添市図書館「浦添市史 浦添のあゆみ 第三巻 資料編 2」

浦添市図書館「沖縄の郷土月刊誌 青い海 No56 秋季号 1976」

浦添市図書館「第 15 回 具志川サミット記念 全島獅子舞フェスティバル」

浦添市図書館「第 32 回 アジア獅子舞フェスティバル 全島獅子舞フェスティバル」

## 第 2 項 制作物

### 1 節 制作物

(仕様)・A4 サイズ 2 つ折

- ・全カラー
- ・4 ページ

(デザイン)

- ・日ごろからデザイン関係の仕事をしているため、自身で行う。

### 2 節 制作物の提供・広報

関連団体へ提供する

- ・勢理客自治会の配布資料として
- ・浦添市文化課、浦添市観光協会
- ・小中学校や幼稚園や保育園  
など

広報

- ・自治会長会での PR
- ・SNS での発信  
など

## 第3項 発展と課題

### 1節 パンフレットの活用・発展

今回制作するパンフレットは勢理客自治会に提供し、気軽に市民へ配布できる資料として活用していただきたいと思っている。今まで詳しい内容がわからなかった人も深く知ることにより獅子舞への愛着、引いては地域への愛着へとつながると考える。また、各小学校や幼稚園・保育園などに配布することにより勢理客地域の方々だけでなく、浦添市全体へ周知することで浦添市民が浦添市への愛着を今よりも強くできると思う。国選択無形文化財、浦添市指定文化財でもある獅子舞はそのポテンシャルを持っていると感じた。

パンフレットは単体でも配布物として利用できるが、大きな計画（ビジネスなど）を立てる場合でも必要不可欠な資料になる。

## 第4項 結論（2年間の学び、卒業研究を終えて）

卒業研究テーマをするにあたって一番壁になったのは、研究テーマ内容と私自身がそこに費やすことができる時間のバランスであった。大きなすばらしいテーマを設定してもそれをやりきるスケジュールが計画できないと本末転倒だからだ。今回は仕事としてデザインを行っているため、私に出来ること、私にしかできないこと、私のできる範囲を根底に置きテーマ及び内容を設定した。そこで感じたのは、この卒業研究が地域の活動だと見立てた場合、1人でできることはほんの小さなことだ。どんなに良い発想ができて仲間や協力者、自身の動ける時間でやれる範囲がきまってくる。きっと地域貢献をしたくてもなかなかできない人はこれと同じようなことを悩んでいると思う。

しかし、自治会を活性化するというテーマでもある今回の卒業研究に対し、私はパンフレット制作というほんの1部のことだけに的を絞った。小さな1つかもしれませんが、1つは1歩を踏み出すために大切なことです。そして資料や情報は自治会活性に不可欠なものだ。

今回は私はパンフレットの制作をしたが、地域の為に誰かがほんの1つ何かをして、それが増えていき、最終的にはそれが自治会活性化につながるものだと感じている。

卒業研究を通して、出来る範囲でほんの1つ出来る事をする、それが地域貢献の基本中の基本という結論にたどりついた。

## 第5項 その他

自治会への加入促進に関する基本協定書調印式（別添資料2）

<勢理客獅子舞写真>





# 卒業研究

学部名：コミュニティビジネス・地域振興学部

氏名：久田 友貞

## 1. テーマ

「里浜」の活用について

## 2. テーマ設定理由

平成29年12月「里浜条例」が可決、西海岸の豊かな自然とイノー(礁池)が市民の里浜として宣言されました。地域の地道な活動が名実共に「港川の宝」から「浦添の宝」「沖縄の宝」としてカーミージー周辺のサンゴ礁の海がのこります。保全・保護を優先に共生・再生もふまえて環境に負担を掛けない活用をテーマとしました。

## 3. 項立て

1. 地域の歴史
2. 保全
3. 活用
4. アーサ
5. 展望
6. 課題

# 1 地域の歴史

(その特徴)

小学生・中学生の頃、牧港川から南へ発電所をまたいでカーミーギーまでの広い海は遊び場であった。干潮時のイノーで海老・タコ・カニなどを取り海岸で魚釣りをしながら一日中過ごすことが出来た。

カーミーギーは琉球列島の中南部西側あり、地域の周辺の海は黒潮の影響を受け、周囲の海には熱帯サンゴ礁が広がっている。浦添市の西海岸北の空寿崎（クージュ崎）通称カーミーギーから南は西洲まで長さ約2.7キロの自然豊かな海岸線が残されている。

コンクリート護岸の無い渚は、多種多様な生き物を目にする事ができる。沖に向かって1.3キロ程のサンゴ礁地形が広がり、この海域は沖縄県の「自然環境の保全に関する指針」の中で評価ランクⅡ（自然環境の保全・保護を図る区域）に指定されている。このランクは良好な生態系が維持されている事を示し、カーミーギーはこの保全すべき海岸の北端に位置している。カーミーギーとは（亀瀬）で、少し離れて西側から見ると亀の甲羅に似た形をしていることから地元では、そう呼ばれている。北に頭を向けて海の彼方をじっと見ている姿にも見える。

港川は城間と牧港の間に位置し1944年に行政区として独立、世帯数は40世帯・人口は200人の小集落で、海浜に近い地域は首里士族が移住して元の集落から離れた荒れ地を開墾して築いてきた場所で、豊かな海に支えられて生活を営む半農半漁の地域であった。現在は世帯数3082世帯・人口は7535人。

身近にあった海は、その昔に琉球国・第17代尚灝王（在位1806～1834年・享年47才）の居住地【城間御殿】であり、首里城を離れて暮らし病気の療養地に選ばれた風光明媚な場所で、世子・尚育も14才まで7年間共にこの地で暮らした。

今日、世界で沖縄空手を愛好する人々にとって尚灝王の御側役（身辺警護）を務め後に尚育・尚泰王の3代に仕えた松村宗昆（1806～1894年）は、拳聖として名を馳せている。武士松村が王命により、村松（元は嘉陽）からの改名や猛牛と闘うことなどのエピソードやストーリーを史実として、「闘牛場」や「城間御殿」などは観光名所と成る可能性は大きい。

西海岸の埋め立てが計画されるなか、港川自治会では平成16年度から地域行事として「里浜」の活用を目指した取り組みを行い地域に残された自然環境を新しいまちづくりとし「ふるさと再生」に世代を超えた交流「居場所」として活用していく事を目標に、カーミーギー周辺の保全活用に取り組み現在に至っている。

## 2 保全

(地域の取り組み)

古くから生活の一部として受け継がれてきた海の楽しみ方や海の利用、これを「海の文化」として次世代に伝え残していくことは、多様で自然豊かな暮らしを続ける為に必要不可欠である。一昔前は当たり前だった「海辺と人々との豊かな繋がりに」、これを現代の暮らしにかなう形で蘇らせる試みが「里浜づくり」だ。カーミージー周辺の海は都会に近く遠浅で干潮時には比較的安全に遊べる海で、最近では環境学習やエコスポーツなどの場所としての新たな価値が見出されている。

この海で自然に親しみ海の生態系や海と人との関わりを学ぶ事は、地域の人々の環境意識を高め地域の環境保全の担い手を育成することにつながる。

### (1) 活動の経緯

平成16年(2004年)・自治会の里浜活動が始まる。

平成16年4月・自然観察と潮干狩り、親子参加の総合学習。(しかたに自然案内)

平成17年5月・スマトラ沖地震被災地支援チャリティー・コンサート。

5月・美化活動 クリーン作業を地域住民、学生や企業のボランティア。

7月・まちづくりプラン賞 地域からの提案と周知活動。

8月・追い込み漁 親子で体験・網作りから魚とり。

8月・自然学習会(豊かなイノー・多様な役割)小中高校生・教師参加。

平成18年2月・「美ら島・シマおこし大会・分科会」 会場でパネル展示。

2月・「浦添市社会研究大会及び学級生大会」海っ子自然教室の紹介。

3月・自然観察会「カーミージーで浜下り」市民交流の海遊び。

5月・安心安全に利用できる海洋型体験学習施設の早期実現を市長へ要請。

6月・美化活動、住民参加でクリーン作業。

6月・港川小学校4年生の総合学習事前勉強会。

6月・港川小学校4年生200名で海浜観察会。

6月・体験学習、追い込み漁の網づくり。

8月・里浜で遊ぼう、親子体験追い込み漁 支援の漁師と100名参加。

8月・地域内・小中学生約20名がカーミージーを題材に自由研究。

8月・「合同地域行政懇談会」区民との行政。

12月・第一回港川まちづくりフォーラム。

平成19年3月・里浜・里海イベント初めて市民参加による三味線の合奏・太鼓演舞。

4月・「島や宝」コンサート・シンポジウム那覇市民劇場でパネル展示。

5月・市内全域でクリーンデー カーミージー周辺の清掃活動。

6月・興南高校全生徒800名で海岸清掃作業ゴミ80袋・総合学習活動。

- 6月・カーミージー探検隊「自然観察会」保護者や地域の協力で開催。
  - 7月・古重嶽（クージュタキ）地域の歴史、由来を学ぶ文化講座・第17代王の「御願所」縄文時代の古代人が生活をしてきた等について学習会。
  - 8月・第1回「ワークショップ・学習会」海の生物の話。
  - 8月・第2回海草藻場について浜辺環境を残す考えを発表。
  - 9月・親子体験追い込み漁。
  - 11月・浦添市民里浜フォーラム2007浦添市中央公民館にて200名余の参加で保全・賢明な利用の「里浜づくり宣言」を採択する。  
うらそえ市民ネットワーク実行委員会の設立。
  - 11月・沖縄県公民館研究大会（宮古島） 優良自治公民館賞を受賞。
  - 12月・港湾道路埋立てに関する環境アセス意見書・89件提出。
- 平成20年1月・平成19年度浦添市まちづくりプラン第一回里浜環境学習セミナー。
- 2月・海に学ぶ体験活動。佐賀県で鹿谷麻夕氏により事例紹介。
  - 3月・「里浜環境学習セミナー」自然観察会・ワークショップの参加者と何を大切にしたいか？何を残したいか？どこを改善したいか？発表した内容について意見交換。
- \* 上記参考資料：（社）沖縄県対米請求求権事業協会・助成シリーズNO32  
「パートナーシップで創る、カーミージー周辺の里浜の実現に向けた住民参加の計画づくりをとおした地域振興方策」（平成20年3月）から転載。
- 平成23年8月・港川小学校教員「カヌー体験」28名、身近に素晴らしい海があることを伝え活用の実証へ。
- 平成29年6月・港川小学校で探検隊発表会。
- 6月・「里浜条例」などで市長要請。
  - 7月・「里浜条例」環境保全課より住民説明会。
  - 8月・港川小学校職員 カヌー体験。
  - 8月・夏休み親子 カヌー体験。
  - 8月・港川小学校6年生授業 カヌー体験。
  - 10月・港川小学校4年生 環境学習でゴミ拾い。
  - 10月・市より西海岸道路問題の住民説明会。
  - 12月・円卓会議開催 港川小学校地域連携室にて。
  - 12月・浦添市議会で「里浜条例」可決成立。
- 平成30年1月・「里浜」保全活用第一回ワークショップ（マナーとルール）開催。
- 2月・「里浜」保全活用第二回ワークショップ 市環境保全課参加。
  - 2月・港川小学校4年生 アーサ採り体験。
  - 2月・高架橋（カーミージー橋）地域住民の見学会。

- 3月・西海岸道路開通式。港川自治会の子ども達が空手、エイサーの演武を披露した。
  - 4月・港川自治会定期総会にて、カーミージー隣接埋立て地内のリゾートホテル建設の説明会。
  - 4月・15年目の「カーミージー体験隊」港川小学校4年生総合学習。
  - 6月・里浜ネットワークの企画で海岸のゴミ拾い。
  - 8月・サンゴの移植活動（株）沖縄電開発の協力で体験・調査活動。
  - 10月・市内企業のコカ・コーラ社員80名の参加で清掃活動。
  - 10月・沖縄県環境功労者賞受賞。
  - 10月・沖縄タイムス地域貢献賞受賞。
  - 10月・沖縄国際大学・沖縄大学の学生が環境問題をテーマに研究。
  - 11月・「浦添新八景」モニュメントが設置される。
- 平成31年1月・西海岸里浜海浜クリーンアップ実施、参加者は関係者・一般の約100名
- 2月・平成30年度浦添市教育委員会表彰。（社会教育功労賞・団体）
- \*上記資料は「港川自治会だより」からの転載。

## (2) 保全活動

うらそえ里浜ネットワーク実行委員会の設立により、カーミージーのルール作りワーキングチームによる「里浜・カーミージーを保存しながら活用するガイドライン・前文」が発表され環境保全を中心にエコ・ツーリズムの精神のもと海を訪れる全ての方々に協力を呼び掛ける。

\*エコ・ツーリズムとは

「自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し、学ぶと共に対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかた」

（環境省・エコ・ツーリズム推進会議）

「旅行者が生態系や地域文化に悪影響を及ぼすことなく、自然地域を理解し鑑賞し楽しむことが出来るよう、環境に配慮した施設及び環境教育が提示され、地域の自然と文化の保護・地域経済に貢献することを目的とした旅行形態」

（日本自然保護協会）

- イ、自然と共生・レジャー主体でなく自然の生態系と共生する活動・災害時や人命救助を除き動力付き船舶のリーフ内への侵入・海岸への接岸をしない。
- ロ、生物採集・販売目的の水産物採集をしない、自家消費目的の海藻類は一日一回、こぶし大とする。
- ハ、教育・研究
  - 地域イベントや学習のための海藻類の採集を除き潮干狩り等による生物の採集期間を決める。

二、環境対策・定期的な清掃・海域の水質測定をする、ゴミの持ち帰り、禁煙  
焚き火・花火・飲酒等迷惑行為の禁止。

ホ、海浜の安全・利用エリアのゾーニング（区分け）海の危険生物・海浜での  
地形・潮汐・天候への注意。

\*カーミージーの海の利用ガイドラインから引用。

### 3 活用

(エコスポーツ)

国は「スポーツ立国」を宣言しスポーツの成長産業化を図り2025年にはスポーツ市場規模を15兆円とする方針で取り組みを発表した。スポーツによる社会活性化を図ると共に国民の健康福祉の増進を図り、もって社会福祉の改革に取り組み財政負担の軽減を見据えた改革が始まる。

(1) 里浜で楽しむマリンスポーツ

イ、カヌーの種類 ①クローズドデッキ（カヤック）

②オープンデッキ（インディアンカヌー）湖面での活用に限定

レジャー用 ファンカヤック → 多目的用

レジャースラローム → 別名、リバーカヤック

フォルト・ボート → フォールディング・カヤック

シーカヤック → オーシャン・カヤック

サーフ・カヤック → 波乗り用・小型カヤック

セーリング・カナディアン → セーリング用 カヌー

多用途があり競技・レジャー・レクリエーションに最適。

ロ、スタンドアップ・パドルボート（SUP）

サーフボードを立てて乗り、オールを漕ぎ移動する

ライフジャケットを適正に着用して行う。

SUP&ヨガは若い女性に人気がある。

カタガチャーゴムイ又はチビスンチャーの礁池で児童の利用も可能。

ハ、ウインドサーフィン

ファンボートは強風でも楽しく乗れるボードで1990年に日本へ上陸する。

二、サーフィン

1996年 プロツアーが始まる。カーミージー周辺の海底は岩礁である為にサーフィンに適さない。

ホ、シュノーケリング

顔を水中に伏せて泳ぐ、広い礁地で干潮時でも楽しめる。

#### へ、スキンダイビング

息を堪えて潜水、身体を露出して潜る。

#### ト、フリーダイビング

一息でどれだけ潜れるかを競う。

#### チ、アクアサイズ

水を利用して健康の維持増進、スポーツのトレーニング病気の予防・改善にも活用。

#### リ、アクアフィットネス

水の抵抗と浮力巧みに利用し体への負担を減らした水中運動で楽しみながら行えるだけでなく非常に効果的。

#### ヌ、アーシング

体内に溜っている静電気、有害な電磁波を対外は放電する健康法、素足になって大地に足をつけ、体内で帯電している静電気を放つ、砂浜は最適な場所である。

#### ル、水泳・海水浴

4つの泳法・クロール・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライを海で楽しむ。

メリットは肥満・運動不足・肩こり・高血圧・糖尿病・動脈硬化・高脂血症・飲酒・喫煙・癌予防等に効果的。

- ①肩など大きな関節を動かす、リズムカルな全身運動。
- ②最低でも5分以上、続けける事が出来る。
- ③運動の強度を自分の年齢や体力に合わせて調節できる。
- ④健康維持にベストのスポーツ。
- ⑤水圧と浮力がもたらす大きな効果。
- ⑥心身のリフレッシュにもってこい。
- ⑦一人で何時でも出来る。

#### ヲ、着水泳

命を守る着水泳とは、衣服と靴を身につけた状態のまま水中で行う、身のこなしに関する技術と知識である。

- ①水泳教育・安全思想・救助技術の普及・救急救助体制の整備及び各種安全対策の強化によって減少している。

第11管区海上保安本部のまとめによると、県内で2018年にマリレジャーの事故に遭った人は89人（速報値）で、うちシュノーケルを使って遊泳中は28人に上った。死亡・行方不明者は11名で前年から6人増加  
台風が過ぎて、天気が晴れても波が高く油断して遊泳し事故に遭うケースも多い海に出るときは気象だけでなく、海象状況を確認することが重要だ。  
沖縄タイムス 平成31年 1月31日（木）掲載記事より。

## 4 アーサ

(海の植物・海藻と海草)

イ、海藻：海産の藻類・陸上の種子植物のような根・茎・葉の機能的な区別が無く仮根と呼ばれる部分で岩などに付着する。孢子と分裂で増殖する、体にもつ葉緑体色素の違いで緑藻類・褐藻類・紅藻類などに分類される。人間の食用や産業に利用される海の植物はほとんどが海藻類。日本には約1400種が知られ進化的にはずっと海中で生活してきた植物。

ロ、海草：海産の単子葉の維管束植物・根・茎・葉の区別があり花をつけ水中で受粉して果実と種をつくる。分類上はイネ科に近いと言われ日本で20～30種程がある。進化的には陸上生活をしていた祖先種のうち再びうみでの生活に戻ったグループと考えられる。海草は世界に約60種、日本に16種、沖縄島に9種、カーミージー周辺では7種観察できる。

ハ、海藻藻場には 1) 海水を浄化し 2) 地下茎を張り巡らすことで砂地を安定化させ 3) 海水から栄養分を取り込んで育つ事で他の生き物の餌を作り出す高い生産性を持ち 4) 雑魚や多くの小動物に餌場を提供するという重要な役割がある。この結果、海草藻場には複雑な食物網を持つ独特の生態系が出来上がる。

二、アーサの特徴（海藻）

大きさ20センチ前後になる。葉は非常に薄く触った感じが柔らかい縮緬状に縮れ小さい穴がある。

①学名の由来・漢字で広葉一重草（ヒロハノヒトエグサ）由来・語源・ヒトエグサは藻体の細胞が一層である。

②地方名・アオサは一般的で沖縄地方ではアーサと呼ぶ。

③市場名・アオノリはクロノリ（黒海苔・スサビノリ）に対しての呼び名で愛知県・三重県など。

④生息域・内湾生・太平洋岸中部・瀬戸内・潮干帯上部の岸抗など

⑤基本情報・ヒトエグサとの関係など、まだ分類学的にも明確でない部分がある。

ホ、アーサの調査

南北・（カーミージーからチビスンチャー）東西・最も沖合のウフンシー手前のタタンビシの前方礁原の範囲で調査を行う。

① 採取の期間

冬場の旧暦12月15日～2月15日の間・大潮の前後12日程・干潮時前後2時間を目安に年間約60日120時間。1月間に2回の採取が可能。

② 採取の範囲

前方礁原で生育場所を調査し、収穫量を集計する。

③ 採取の量

1 平米当たりの量をモニタリング・1 時間当たりの総量。

④ 採集の方法

(ア) 干潮 1 時間前に海へ入り潮に浸かった状態で採る。

(イ) 潮が引いた岩場上の藻の根は残したまま手摘み、あるいはハサミを使用。

⑤ 採集実地調査

平成 31 年 1 月 21 日 (月) 12 時 30 分～14 時 30 分

(ア) と (イ)、を 1 時間ずつ実施する。採集したアーサを海水で洗い、手で絞  
絞り重さを計る。1 キロ弱を天日に乾して 9 時間程 (気温 20 度・湿度 40 パ  
ーセント) で、乾燥後のアーサは 120 グラムになった。

\* 価格参考：スーパーで販売されている県産品の無印品は 12 グラムで 198  
円、産地表示品は 10 グラム 298 円の価格。

## 5 展望

(スポーツの活用)

- (1) カヌー体験を港川小学校の 6 年生に体験学習として取り入れている。市  
内 11 の小学校で取り入れることで地域の教育格差をなくす。
- (2) 他のマリンスポーツ等は海浜公園の施設の充実に伴い実施の可能性が有る  
早めに受け皿づくり (業者・人材育成) の準備と確保が必要。
- (3) エコスポーツを取り入れ市内外へ情報発信、人が集まる工夫をする。
- (4) スポーツを通じネットワークづくり、コンペやレク大会など開催し定期  
的な集客を考え継続性をもつ。

(アーサの活用)

- (1) 商品の優位性を確保、イメージづくりでブランド品に。
- (2) 販路は地産地消・直売・学校 (食育)・管理施設・郵便局など。
- (3) 収穫の安定した仕組みをつくり供給する。
- (4) 利益は経費を除き里浜の保全・保護活動の基金とする。
- (5) ガイド付きで採集体験などを企画し、観光や一般の人に提供する。

(コミュニティー・ビジネスとしての活用)

- (1) スポーツに関しては専門業者に任せる事により、四季を通じて利用者を  
呼び込む仕組みをつくる。
- (2) カヌー以外のスポーツに関しては施設管理者の自主事業として市民及び  
学校教育などへサービスを提供。
- (3) 競技性 (個人・団体) のあるスポーツ・レジャーを開催し地域内外へ情

報を発信し継続して行う。

- (4) 施設内のトイレ・シャワー・駐車場等を有料とし、その管理運営を地域住民に任す。
- (5) 隣接するホテルの滞在者へのアクティビティの受け皿づくりとしてのサービスを考える。
- (6) アーサは地域の高齢者や授産施設などと連携をとり収穫の安定を計り収入を確保する。
- (7) イベントなどへ提供するアーサは、材料・商品として適正な価格を設定。
- (8) 観察会やセカンド・スクールの開催など、自然学習や自然体験の受け入れ等で学校教育のサポートを担う。

## 6 課題

うらそえ里浜ネットワーク実行委員会（ワーキングチーム）のキャッチフレーズには「今ある自然をこれからもずっと」「100年後の子ども達がこの自然と触れ合えるよう」「100年前の豊かな海を100後に取り戻すために」とある。

カーミージー周辺が海浜公園として整備され施設の運用が始まる前までには、隣接するホテル用地の護岸工事、ホテルの建築工事、更には南側のショッピング施設や軍港移転による沿岸埋め立てと工事が続く海浜の形態・海流の変化等による環境の変化や保全・保護に悪影響を及ぼしかねない状況だ。里浜の活用に加え、海を快適に使えるように管理施設の配置や駐車場から海へ移動する際に利用者の負担を少なくし、運営の関係者や団体の意見を取り入れてムダを無くす。

また、交通量の増加や人の流れが増えることで起こる事故の発生を未然に防ぐ為、海岸への通路はバリアフリーにして道路の横断を最小限に留めて安心安全快適な場所とし、健常者も老人・幼児（ベビーカー）児童や障害者（車イス）も含め楽しく過ごせるよう配慮が必要である。救急の場合の車両の進入、対応がスムーズに処理できる事。また、海岸清掃の際にゴミの集積所から収集して運び出す動線など、ボランティア活動で多くの参加者が働き易い仕組みも考える必要がある。

充分でなくとも奇跡的に残された「里浜」は健康や福祉・スポーツやレジャー色々な人達のレクリエーション・癒しの場となり、内外から観光やホームステイ修学旅行などに注目される可能性を秘めており、いかに活用するかを港川地域の活動だけでなく、浦添市民の活動とするかの岐路にある。

## まとめ

(市民と行政 今こそ、パートナーシップを)

\*浦添市 市民部 環境保全課（H28年てだこ市民大学・共通科目）の資料から

対症療法的「環境保全」 ⇒ 行政主導の保全事務

予防療法的「環境保全」 ⇒ 市民・市民団体・事業者

行政が協働する環境保全

「里浜」は、まさに自然の価値を見直し、子ども達の総合学習の場となる。

高齢者の経験を活かし、大人と子どもの連携を計り世代間の交流で地域の活性化や

居場所となる。「カーミージー」が100年後の子ども達にも自然と触れ合えるよ

うに「市民と行政及び企業や専門家」が目標を共有し協働して停滞なく活動するこ

とが肝要である。

終わりに アメリカ・インディアンの自然に対する考え方

「自然は未来の子供たちからの預かりものだから、大切にするのだ。」

この考え方に深く共感する。先人から「受け継ぐ光」を未来へ「つなげる光」とし

100年後にも触れ合えるように。

卒業研究で資料の提供並びに御意見、御指導をいただいた皆様に感謝。

・港川自治会・うらそえ里浜ネットワーク実行委員会

銘苺 全郎氏

田邊 治通氏

・しかたに自然案内

鹿谷 法一氏

鹿谷 麻夕氏

・沖縄県カヤック・カヌー協会

笹尾 修司氏

## ○浦添市里浜の保全及び活用の促進に関する条例

平成 29 年 12 月 20 日

条例第 30 号

(目的)

第 1 条 [この条例](#)は、西海岸の里浜の保全及び活用(以下「保全等」という。)の促進についての基本理念を確立することで、市並びに市民、活動団体、事業者及び来訪者(以下「市民等」という。)がそれぞれ果たすべき責務及び役割を明らかにするとともに、貴重な地域資源としての里浜の保全等を促進するために必要な事項を定めることにより、里浜づくりの次世代への継承を図り、もって市民の健康及び福祉の充実、心豊かな生活の確保並びに協働のまちづくりに寄与することを目的とする。

(定義)

第 2 条 [この条例](#)において、[次の各号](#)に掲げる用語の意義は、[当該各号](#)に定めるところによる。

- (1) 里浜 多様な自然環境を構成している海浜と人々とのつながりが現代の暮らしの中で身近なものとして、様々な活動がなされているカーミージー周辺の海岸等をいう。
- (2) 里浜づくり 地域の人々が海辺と自分たちの地域の関わりがどうあるべきかを環境保全及び災害防止のあり方も含めて議論し、海辺を地域の共有空間として意識しながら、長い時間をかけて地域の人々と海辺との固有のつながりを培い、及び作り出していく様々な運動又は取組をいう。
- (3) カーミージー 西海岸の空寿崎の先にある、亀の形をした石灰岩の大岩をいう。
- (4) 活動団体 里浜づくりを理解し、里浜の保全等の活動を積極的かつ主体的に行う団体をいう。
- (5) 事業者 市内で事業を営む個人及び法人その他の団体(国及び地方公共団体を除く。)をいう。
- (6) 来訪者 県民及び観光等の目的で市外から来訪する者をいう。

(基本理念)

第 3 条 里浜の保全等は、里浜が現在及び将来にわたり市民等が安全かつ健康で文化的な生活を維持するための重要な資源であることを認識し、次に掲げる事項を基本理念として推進するものとする。

- (1) 生物多様性及び自然の循環に着目し、里浜の貴重な自然環境の保全及び回復を図ること。
- (2) 市民参加を主体とした里浜の歴史及び文化の学習及び伝承の場として活用すること。
- (3) 里浜を防災意識向上及び憩いの場として活用し、都市の生活環境の保全及び回復を図ること。

- (4) 里浜における環境保全に配慮し、人と自然とのふれあいを確保すること。
- (5) 市及び市民等との協働による里浜づくりの推進を図ること。
- (6) 里浜づくりの活動と理念を持続させるため、環境教育及び環境学習を通して人材育成を図ること。

(市の責務)

第4条 市は、[前条](#)に規定する基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、里浜の保全等の促進についての施策を策定し、及び実施しなければならない。

- 2 市は、[前項](#)の規定による施策の策定及び実施に当たっては、里浜の状態及び利用状況についての調査その他必要な措置を講ずるとともに、当該施策を市民等及び関係機関等と協力して実施しなければならない。
- 3 市は、[第1項](#)の規定による施策の策定及び実施に当たっては、当該施策を市民等及び関係機関等に周知しなければならない。
- 4 市は、里浜の意義に関する市民等の理解を深めるため、必要な普及啓発活動を行わなければならない。

(市民等の役割)

第5条 市民等は、基本理念にのっとり、里浜の保全等に自ら努めるとともに、市が実施する里浜の保全等についての施策に協力するものとする。

(協議会)

第6条 里浜の保全等に関する関係者間の意見交換及び情報共有を図るため、浦添市里浜保全活用促進協議会を設置する。

附 則

[この条例](#)は、平成30年4月1日から施行する。



# 卒業研究

学部名：コミュニティビジネス・地域振興学部

氏名：下地 優貴子

## 1. テーマ

浦添市における女性向けタクシーツアーの提案  
～浦添を心いっぱい贅沢に味わう、癒しのタクシーツアー～

## 2. テーマ設定理由

沖縄の経済を考えると、観光産業を度外視することはできない。平成30年度の沖縄県入域観光客数は984万2,400人（平成31年1月時点、沖縄県）に達しており、国内有数の「癒しの島」としての地位を確立している。

観光客は様々な目的をもって沖縄を訪れるが、中でも「癒し」「自然」「パワースポット」「スイーツ」などを目当てに訪れる20～50代の女性が目立つようになった。観光情報誌などでも頻繁に特集が組まれるこれらの要素を、すべて一度に堪能することができるサービスは未だ沖縄に確立されていない。また、日本国内ではタクシー会社が企画する「変わり種ツアー」が反響を呼んでおり、メディアで特集される機会も増えた。「癒し」をテーマとしたツアーを浦添市内で展開することで、結果的に浦添全体を知ってもらい、魅力を伝えることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

## 2. 項立て

第1項 はじめに

第1節 研究目的

第2節 先行事例

(1) 先行事例

(2) 分析

(3) 考察

第2項 ツアー内容

第1節 コンセプト

第2節 ターゲット

第3節 コース

第4節 提携先

第3項 展望と課題

第4項 おわりに

謝辞

参考資料

浦添市における女性向けタクシーツアーの提案  
～浦添を心いっぱい贅沢に味わう癒しのタクシーツアー～

コミュニティビジネス・地域振興学部 9期生

下地 優貴子

2019年2月14日 提出

# 浦添市における女性向けタクシーツアーの提案 ～浦添を心いっぱい贅沢に味わう、癒しのタクシーツアー～

## 第1項 はじめに

本論文は、浦添市における新たな観光プランの創出を目的として研究および提案するものである。本論文の構成としては、他府県で実施されているタクシーツアーの事例を参照した上で、沖縄県および浦添市の強みを生かしたツアープランを組み立てるものとする。

## 第1節 研究目的

沖縄の経済について考えるとき、観光産業を度外視することはできない。平成30年度の沖縄県入域観光客数は984万2,400人(平成31年1月時点、沖縄県)に達しており、国内有数の「癒しの島」としての地位を確立している。観光客は様々な目的をもって沖縄を訪れるが、中でも「癒し」「自然」「パワースポット」「スイーツ」などを目当てに訪れる20～50代の女性が目立つようになった。観光情報誌などでも頻繁に特集が組まれるこれらの要素を、すべて一度に堪能することができるサービスは未だ沖縄に確立されていない。また、日本国内ではタクシー会社が特殊なテーマを設定・企画する「変わり種ツアー」が反響を呼んでおり、メディアで特集される機会も増えた。

上記を踏まえ、観光名所ではなく「癒し」をテーマとしたタクシーツアーを浦添市内で展開することで、浦添全体を知ってもらい、魅力を伝えることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

## 第2節 先行事例

数年前より、特殊なテーマを定めてタクシーで回るツアーが、各地で多種多様に展開されている。本節では、これらの「変わり種ツアー」と呼ばれる取り組み事例を紹介し、どのような特徴があるのか分析を行う。

### (1) 先行事例

#### ① 心霊スポット巡礼ツアー (三和交通)

2015年から7月下旬～9月上旬に神奈川県において実施されているツアーである。21時からタクシーに乗車し、トンネルや廃墟と化したホテルなど5つの心霊スポットを訪れる。心霊現象とタクシーを絡めた怪談は多く、相性が良いということもあって好評を博して



図1 「心霊スポット巡礼ツアー」メインビジュアル

いる。期間中の金土曜日のみ運行、約90分で1台あたり6,000円である。

## ② バレンタイン占いタクシー（三和交通）

変わり種ツアーを数多く手がける同社が打ち出したスペシャル企画のひとつである。2019年2月中、毎週日曜日に運行している。車内に同乗している占い師が、バレンタインを間近に控えた乗客の恋愛や相性について占うもので



図2「バレンタイン占いタクシー」メインビジュアル

ある。電話占いサービスを展開している「エキサイト電話占い」とコラボし、占い師は週替わりで4名が担当している。車内を「個室」と捉え、密やかに行うイメージの強い占いに結びつけた点に特徴がある。1日3回の運行で鑑定は一枠30分、価格は4,450円である。

## ③ 縁結び娘が同乗 タクシーで巡る縁結びスポット (NPO 法人松江ツーリズム研究会)

出雲大社をはじめ、数多くの縁結びに関連するスポットを有する島根県において行われていたツアーである。縁結びに関連する場所を「縁結び娘」と呼ばれるガイドが同乗・案内しながら巡るツアーであり、1人あたり2,500円とリーズナブルな価格設定となっている。



図3「タクシーで巡る縁結びスポット」  
メインビジュアル

## ④ 京都・失恋タクシー（チェルカトラベル株式会社）

「女性をキレイにする旅をコーディネート」をスローガンに掲げる同社が2012年ごろから実施しているツアーである。人混みを避け、寺院や茶室にて京都の自然や雰囲気静かに堪能する「癒し」をテーマとしたプランになっている。女性ドライバーに車内で心の内を話し、受け止めてもらうこともサービスの1つとなっている。そのほか専門店にてタロット占いやキーチェーン作りなどの体験をすることもできる。回る場所は季節によって異なるため、公開されていない。価格は23,000円と高めに設定されているが、あまり知られていないスポットを巡ることができるという点をセールスポイントにしている。

## (2) 分析

先行事例からはいくつかの共通点を見ることができる。以下、分析である。

### ① 乗客の心情ありきのプランを企画している

従来、ツアーというのは名跡・名所を巡り、歴史を感じることに終始するものがほとんどであったと思う。しかし変わり種ツアーと呼ばれるこれらのツアーは、人々の「ドキドキしたい」「癒されたい」「笑いたい」といった感情的な部分を前提としてプランを組み立てている。連れて行った場所で初めて感情を生じさせるのではなく、もともと発露している特定の感情をさらに煽るような仕組みになっているのである。当たり前のような話ではあるが、従来のツアーとはベクトルの異なる発想であるように思う。

### ② 人との交流がある

先に紹介した事例すべてにおいて、タクシードライバー・同乗スタッフと乗客との交流が認められた。心霊スポット巡礼ツアーでは、タクシー運転手からこれまでの勤務中に体験した心霊現象などを聞くケースもあり、一介の運転手ではなく個性的な案内人としての役割も果たしている。タクシーを乗り物としてだけではなく、「移動式の個室」のように扱うケースも見られた。それゆえ、同乗している人との関係性や、居心地が良くなるよう工夫していると考えられる。

### ③ 実施期間の限定・非限定

数多くの変わり種ツアーを企画している三和交通を例にとってみると、その企画のほとんどは1~2ヵ月程度の期間限定であることが多い。時節ごとに最も関心が高まるイベントに合わせて企画を打ち、関心を一気に集める手法であるように思う。また、期間を限定することで抽選制度を取ることで、当選者・落選者が作り出される。当選・落選は人気度をわかりやすく可視化する手立てであり、話題性を生みやすいと考えられる。

### ④ タクシーであることのメリット

タクシーには「密室性」があり、個室的な側面を持つ。よくツアーに利用される交通機関といえばバスが挙げられるが、見知らぬ大人数と巡ることが前提となるため、一定の緊張感や制約がかかる。話す相手も、一緒に来た連れ合いと固まって喋ることが殆どであり、他の乗客はおろかバスガイドとも交流はほとんどない。その点、タクシーは利用客の最大乗車数がバスよりも少なく、バスよりも利用するまでのハードルが低いため、身軽で自由な印象がある。また、乗用車での移動は安定感と少しの高級感を得ることが可能である。

特に沖縄県においては、公共交通機関のみを利用した観光が難しいため、車で移動で

きるメリットは大きいと考える。また、天気や気温の変化が大きいこともあり、徒歩で移動していると何かと不便な場面が多いこともよく聞かれる。沖縄での観光に際しては、タクシー利用が最も快適な移動方法だと考えられる。

### (3) 考察

上記分析を踏まえ、何を基軸にプランを策定するかを考える。

#### ① 観光客の心情的ニーズ

大多数の人々が沖縄に期待しているイメージについて考えてみると、「暖かさ」「朗らかさ」「自然の美しさ」などであると推察される。そしてそれらは全て「癒されたい」という欲求へとつながっており、ニーズと捉えることができる。

このニーズに応えるには、自然に頼るだけではなく「沖縄人の暖かさ、人懐こさ」を主要セールスポイントにすることが有効であるように思う。個人の性質を侵害しない範囲で、沖縄人の気の良さ、ゆとりを感じてもらおう接客やツアー構想を行う。

#### ② 沖縄の人々との交流

沖縄を訪れた観光客からよく聞かれる感想の1つに、「タクシーの運転手さんが走りながら昔の沖縄について教えてくれた」、「タクシーの運転手さんが気さくに喋ってくれて楽しかった」といった運転手との交流が挙げられる。単純な話の面白さに加えて、「気さく」という雰囲気込みで楽しんでいる場合があるのだ。これはホテルのフロントなどの端正な接客からは得られない、地元を自在に走り回る運転手ならではの接客や語り口から「沖縄らしさ」を感じ取っているのではないかと思われる。

また、観光客が市場のおじい・おばあの話をお熱心に聞く様子も時折見かける。他人行儀ではなく、親戚の子どもに対するように教えようとするおじい・おばあは、観光客が「暖かみ」を感じる興味の対象だと考えられる。これら沖縄の人々との交流を取り入れ、人々の心情的ニーズを満たすことができるプランを模索する。

## 第2項 ツアー内容

前項を踏まえ、浦添市内で実施した場合の具体的なツアープランを検討・提案する。

### 第1節 コンセプト

大テーマとして「癒し」を掲げ、パワースポット、地元の人との交流、食べ物など様々な角度からの癒しを提案する。

## 第2節 ターゲット

前節に特に関心の高い、20～50代の日本人女性観光客2～4人組をメインターゲットとする。

## 第3節 コース

- ・所要時間：約3時間
- ・実施頻度：毎日（年末年始除く） ※2日間まで連続予約可

### <基本行程>

- ・うらおそい聖地巡礼 ※①～③のうち1～2つでも対応可

- ① 前田集落の拝所群
- ② 仲間の拝所群
- ③ 沢岬グスク（カニマン御嶽、祝女神墓、沢岬拝所）

- ・おばあと過ごすゆったり時間 ※①～③のうち1つを選択

- ① おばあとゆんたく（お茶と黒糖付き）
- ② おばあの占い ※ユタ希望の場合
- ③ おばあとお菓子づくり（サーターアンダギー、ポーポーなど）  
※「てーげー」なお菓子作りが望ましい

### \*その他オプション

- ・ゆったりスイーツ @牧港外人住宅街 ※最終地点として送り届けるのみ
- ・パワーストーンブレスレット作り（浦添市内のアクセサリーショップ）

## 第4節 提携先

- ・浦添市内在住の高齢女性（ゆんたく担当、占い担当、お菓子づくり担当）
- ・県内タクシー会社（浦添市を拠点とする企業が望ましい）
- ・浦添市観光協会 まちまーい 他

## 第3項 展望と課題

今年中に沖縄都市モノレールが浦添市まで延長する予定となっており、市の魅力をわかりやすい形で発信することがこれまで以上に必要となる。本提案はまだアイデアに乏しいものではあるが、手法自体は土地が持つ価値、人の生み出す価値を生かす手立てとして有効ではないかと考える。

観光というものは、観光地がアピールしたい魅力と、訪れる人々のニーズがうまく噛み合ったときに初めて成功する。観光客を単に「他所から来た人」と見るのではなく、「何かを求めてここに来た人」だと捉えることで、我々は何を提供できるのかというホスト側の視点で常に考え続けることができるのであり、大きな相乗効果が期待できると考える。

#### 第4項 おわりに

卒論として本稿を見たとき、最も大切な経営や予算策定について組み立てることができなかつたという点が大きな課題として残った。ひとえに自身の構想不足によるものだが、己の計画性の甘さと発想力の乏しさを痛感した次第である。

先行事例を調べる中で、多くの企業・団体がユニークで思わず笑ってしまうようなプランを考案し、さらに長期に渡って実施していることに感銘を受けた。プラン実現にあたってはタクシー会社との提携方法や、各種関係者との関係構築など課題は多いが、今後も実現の可能性を模索していきたい。

#### 謝辞

後半になって市民大学へ通うことが難しくなり、卒論も締め切り間際に提出することしかできなかつた私を暖かく励まし続け、機会を与え続けてくださった平良学部長、ならびにてだこ市民大学事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。

また、入学してからの2年間、様々な講義を通して自らの経験を伝えてくださった講師陣の皆様にご感謝いたします。良い学生ではありませんでした。教えてくださるお一人ひとりから知識だけではなく、「考える」「工夫する」という姿勢を学ばせていただきました。

そして一緒に学んだ同窓生の皆様、共に語り、学び、分かち合う貴重な時間を持つことができたことを嬉しく思います。2年間本当にありがとうございました。

最後に、拙い本稿に最後までお目通しくださった全ての方々に感謝申し上げます。

## 参考資料

- ・三和交通ホームページ「心霊スポット巡礼ツアー」(2019年2月14日閲覧)  
[https://www.sanwakoutsu.co.jp/special/vol\\_001.html](https://www.sanwakoutsu.co.jp/special/vol_001.html)
- ・三和交通ホームページ「バレンタイン占いタクシー」(2019年1月23日更新、2019年2月14日閲覧)  
<https://www.sanwakoutsu.co.jp/special/uranai.html>
- ・「うれしはずかし?縁結びタクシーに乗るの巻」(2015年12月9日更新、2019年2月14日閲覧)  
<https://blogs.yahoo.co.jp/gomenkusamendokusa/34395963.html>
- ・Girls HOUR「京都失恋タクシーがあなたの心を癒します。大好きな彼との思い出は古都に…」(2018年8月5日更新、2019年2月14日閲覧)  
<https://girlshour.net/kyototaxi-2292/>
- ・「浦添市の前田集落北側に位置する前田発祥の屋敷跡地等がある拝所の森☆」(2017年9月12日更新、2019年2月14日閲覧)  
[https://oki-night.blogspot.com/2017/09/blog-post\\_12.html](https://oki-night.blogspot.com/2017/09/blog-post_12.html)
- ・「クバサーヌ御嶽(仲間の拝所群)……浦添市指定文化財」(2017年3月12日更新、2019年2月14日閲覧)  
<https://blog.goo.ne.jp/nrai5029knai/e/d1eb493215a5e570b32eea4c039ebbef>
- ・「グスクへの道標 沢岬グスク」(2019年2月14日閲覧)  
<http://gusukumitisirube.jp/about2/takusigusuku/02.html>
- ・「浦添市沢岬にある鬱蒼と生い茂る林の中の御嶽と 1960年に発見された遺跡☆」(2016年9月16日更新、2019年2月14日閲覧)  
<https://oki-night.blogspot.com/2016/09/1960.html>